

第四卷

私は、宇宙最大の奇跡きせきである。

有史ゆうし以来、現在に至るまで、私と同じ者がこの世に現れたことはけっしてなかった。私の知性、心、目、耳、手、髪、口をもった人間は、かつて存在したことはなかったし、また、現在も存在していないし、未来にも現れることはない。私とまったく同じように、歩き、語かたり、行動し、考える者もない。

私は、すべての人びとと同じ兄弟ではあるが、しかしまた、すべての人びとは異なっている、この世でただ一人の存在である。

私は、宇宙最大の奇跡きせきである。

確かに、私も動物界に属している者の一人である。だが、私は、動物として得られる報酬ほうしゆだけでけっして満足できない。何代にもわたって、私の中で燃えつづけてきた炎ほのおがある。

その炎の熱が、私の精神をあぶり、奮い立たせる。「より優れた者になれ！」と……。そして、私は飽くなき向上心をもって、さらに飛躍しようとする。

私は、自分自身にむかつて宣言する。「私は、この宇宙における、唯一にして、最大の存在である！」と……。

何人も私と同じ絵筆の使い方では描けないし、また、同じノミの使い方では彫刻することはできない。また、私の筆跡を真似ることもできない。他人が私の子供をつくることは不可能だし、事実、他人が私と同じような販売能力を身につけていることもありえない。

これより、私は、この「違い」という利点を利用しよう。なぜなら、この利点こそ最大限に運用されるべき私の財産だからである。

私は、宇宙最大の奇跡である。

他人を真似るなどという無益なことを私はもうしまし。そのかわりに、私は自分の独自性を市場において発揮するのだ。私は、そのやり方で宣伝する。そう、私は、そのやり方で自分を売りこむのだ。

今や、私は、他人との相違点を強調しはじめた。そして、類似点ばかりすよう努める。この原理は、私の売る商品にもあてはまる。他の商人と異なる商品を売る商人は、その異なることに誇りをもっている。

私は、大自然が生みだした唯一の創造物である。

私は稀有なるものであり、そして、稀有なるものには価値がある。そのゆえに、私は価値あるものである。私は、何千万年も進化をつづけてきた最終生物である。したがって、私は、過去のいかなる時代の皇帝や賢人より、精神面においても、肉体面においても、優れた能力が備わっているはずだ。

しかし、その資質、すなわち、技能、知性、心、肉体も、私が活用しなければ、流れが止まった水のように、よどみ、腐ってしまうであろう。

私には、無限の潜在能力があるが、私は自分の頭脳も筋肉も、ほんのその一部分しか使っていない。私は、昨日得た成果の百倍以上の仕事を達成できる。私は、それを今日はじめよう。

もはや私は、昨日あげた成果に満足することなく、とるに足らぬ業績の喜びに浸ることはもうやめよう。私は、今までに成し終えたことよりはるかに大きなことを成しえるし、また、そうするつもりである。

私が、この世に生まれたこと自体は、確かに奇跡ではあるが、その奇跡は、そこに止まつて終わるものではない。私は、今日の行為をもつて、その奇跡をさらに拡大していけるのだ。

私は、宇宙最大の奇跡である。

私は、ほんの偶然で、この世に生まれでたものではない。

私は一つの目的をもつて、この世に存在している。その目的とは、山のごとく偉大なる者になれ、ということである。一粒の砂のごとく卑小なる者になることではけっしてない。今より私は、自分の潜在能力が悲鳴をあげて、許しを請うほど使つてやるつもりだ。私は、人間についての知識、自分自身についての知識、私の商品についての知識を増やしてゆくことを怠りなく努める。かくて、私の販売量は、つつがなく、増大してゆくのである。

私は、商品を売るときに言葉の練習し、改良し、磨きをかける。売るための口上は、商い

の基盤である。私は、幾多の先輩が、売り口上を駆使しただけで、数多くの客の心をつかみ、巨富をともなつた成功へ到達した話を忘れまい。

私は、つねに行儀作法の改良に努める。なぜなら、蟻は砂糖にひきつけられるが、同様に、人びとは、感じの良い態度にひきつけられるからである。すなわち、人を尊重する態度は、蟻に対する砂糖にほかならないのだ。

私は、宇宙最大の奇跡である。

私は、たった今、この瞬間にのみ生きる。仕事に没頭していると他のことは忘れる。市場にあるときは、家庭のことは考えない。家庭のことは家庭に残しておく。同様に、家庭にあるときは、仕事のこととは考えない。市場のことは市場に残しておく。これらの二つを分けておかないと、私の思考力は乱れ、私の愛は、じめじめしたものになってしまいがちとなる。

市場には、家族のいる余地はなく、家庭には商売するための余地がない。この両者は、奇妙なことだが、離婚させておくことによつて、その結婚生活は安泰につづくのである。もし、二つを混同させれば、私の仕事は破綻しかねない。これは昔からある教訓である。

私は、宇宙最大の奇跡である。

私は見るために眼を、考えるために頭脳を与えられた。

そして今、私は、人生最大の秘密を知った。それは、人生におけるさまざまな難関は、じつは、成功のための絶好の機会なのだ、ということである。問題、失望、心痛などは、表面上の姿を変えた「ラッキー・チャンス」なのである。

しかし、私の眼は開かれていますので、その偽装された衣装に騙されることはない。私は衣の下に隠された真実を見ぬくのである。

私は、宇宙最大の奇跡である。

野獣、植物、風、雨、岩、湖、どれ一つとして、私と同じようにして、生まれでたものはない。なぜならば、私は愛の内に生を受け、目的をもって、この世に送りだされた者だからである。今まで、私は、この事実気がついていなかったが、今は、この真理を悟っている。この真理は、これからの私を導き、私の人生を築きあげてゆくのである。

私は、宇宙最大の奇跡である。

大自然は敗北することを知らない。自然は最終的には、つねに、勝利者として姿を現わす。私もこれと同様である。一つの勝利ごとに、私は優れた戦士になる。

私は勝つ。私は偉大な商人となる。なぜなら、私は、この世で唯一の存在だからである。

私は、宇宙最大の奇跡である。